

## 2 国語について

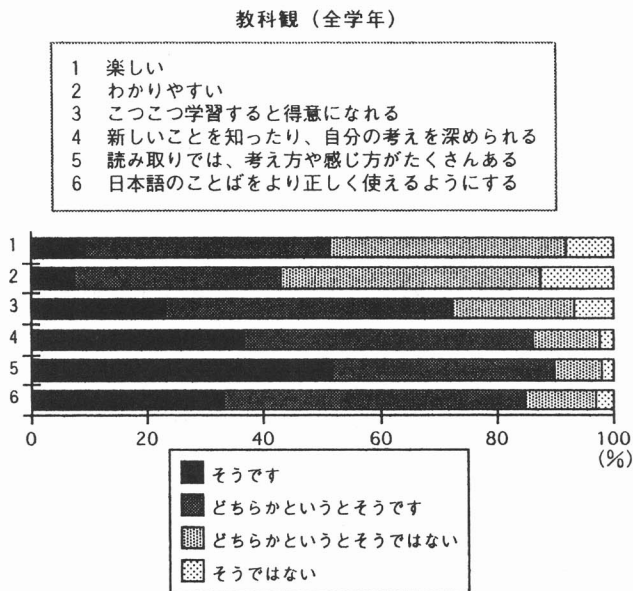
国語について、生徒たちはどのように考えているのだろうか。国語学習に対する意識や、好き嫌い、学習に対する行動などについて調査した。

なお、スペースの関係で、グラフや表は一部しか載せていない。詳しくは、本センター発行の調査報告書をご覧ください。

### 1 国語学習に対する意識

#### (1) 国語の教科イメージ

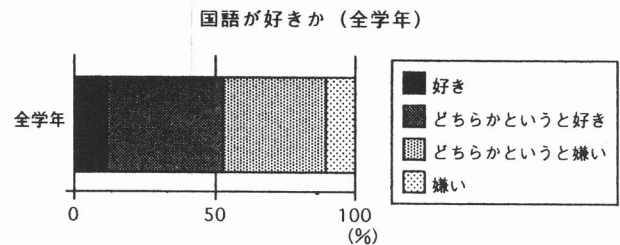
「分かりやすい」「楽しい」といったイメージは40～50%と比較的低いが、「感じ方・考え方がたくさんある」「新しいことを知ったり、自分の考えを深める」などは、85%がそう答えている。「努力すればできるようになる」というイメージも高い。



全体として、教科の意義は感じているものの、もう一つ親しみ難さを感じているように思われる。これは、学年がすすむにつれてマイナスイメージが増加していることと併せて、検討される必要があるように思われる。

### (2) 国語に対する好き嫌い

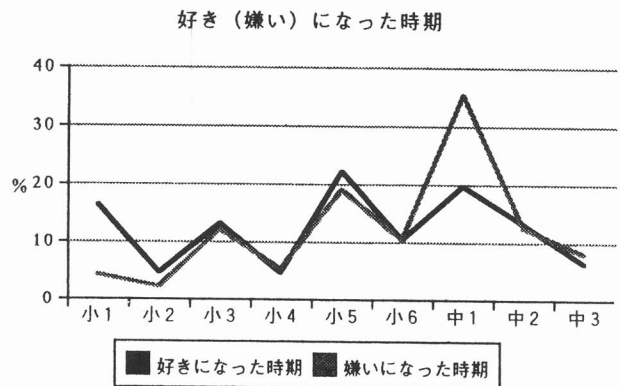
国語に対する好き嫌いは、次のとおりである。



### (3) 国語を、いつ好き(嫌い)になったか。

国語が好きになった時期は、小学校5年と中学校1年の時が多い。

一方、嫌いになった時期としては、中学校1年が圧倒的に多い。中学1年時が、国語を好きになるか嫌いになるかの岐路になっている。



### (4) 好きに(嫌い)になった理由

国語を好きになったわけとしては、「読むことが好き」「漢字が好き」「役に立つ」「授業が楽しい」などの理由が目立つ。

嫌いになったわけとして、「書くことが嫌い」「文法が嫌い」「授業が楽しく分からない」などの理由が多い。

生徒の好き嫌いの意識を決定付ける要因として、低学年は、「授業」や「教師」など学習環境面の要因が強く、高学年は、「成績」や教科内容にかかわる要因が強い。